

小水力発電導入支援・促進業務公募型プロポーザル審査票

評価項目等	評定 (満点)	八千代エンジニアリング株式会社 支店 (A社)	株式会社リバー・ヴィレッジ (B社)	パンフィックコンサルタンツ株式会社 中国支社 (C社)	株式会社建設技術研究所 中国支社 (D社)	N T C コンサルタンツ株式会社 広島支店 (E社)	特記事項
1 事業全体の企画・設計及び運営							
業務の目的（小水力発電の導入促進・リードタイム短縮）を十分に理解し、県、関係部局、関係機関（河川管理者、農林部局、電力会社等）との調整方針が具体的に示されているか。	40	30	28	36	38	26	A社：調整すべき関係機関が一覧化されており、小水力開発における課題を理解していると感じる。 B社：小水力開発の事業者として実績を有するが、広島県内の現状や課題把握は十分でない。関係機関との調整に取り組むことは明記されているため、方針に関する説明を期待。 C社：これまでのマニュアル策定業務において知見を十分に有しており、課題の把握も的確である。 D社：事業の目的を十分に理解し、広島県独自のマニュアル作成を企画することができている。
2 県独自の支援マニュアル作成							
マニュアル全体の構成・目次案が妥当で、実務で活用できるわかりやすい内容となっているか。	60	42	39	51	57	39	A社：既存のマニュアル内容を把握し、網羅的に項目を織り込もうとされており、構成案を具体的に考えている。 C社：作成実績に基づく知見を踏まえつつ、地域特性も考慮した項目設定が検討されており、標準的なロードマップ作成により、事業進捗の見える化を示している。 D社：県内ポテンシャル候補地を評価するノウハウを有しており、基礎編と実践編の構成にするなど分かりやすい工夫がされている。 E社：事業者独自の観点等の工夫や具体例を表示するなどの工夫がほしい。
国の手引きや先行事例を踏まえつつ、県内の実務に即した独自性・地域特性への適合性があり、県内の事業化判断や手戻り防止に資する内容となっているか。	60	51	42	54	57	33	A社：国や他県事例の分析を既に行っており、地域特性を踏まえた掲載内容の提案（規程区域）や、コスト削減方策の提案がされている。 B社：地域特性を踏まえた掲載内容の提案（リブレス）や、具体的な事例内容の提案がされていることは評価できる一方で、手戻り防止のための具体策に関する説明を期待したい。 C社：地域特性に応じた説明の構成が検討されており、許認可や補助金など実態を踏まえた内容が盛り込まれていることが評価できる。 D社：県内ポテンシャル候補地を評価するノウハウを有しており、マニュアル内容も具体的である。 A社：チェックシート等には、これまでの業務実績を踏まえた項目が織り交ぜられている。 B社：提案者のノウハウから想定される課題に対するアプローチが適切になれることが期待できる。 C社：他のマニュアルの内容に精通しており、県独自のマニュアルの作成に期待がもてる。 D社：県内ポテンシャル候補地を評価するノウハウを有しており、マニュアル内容も具体的である。
チェックリストやテンプレート等が整理され、自治体・民間事業者等が活用できる内容となっているか。	60	39	33	51	54	33	
3 ヒアリング等							
アンケート調査							
アンケート調査およびヒアリングの対象選定が業務目的に合致しており、実態や課題、ニーズを把握できる設問・調査設計となっているか。	40	26	22	32	36	30	A社：対象先の数、種類に物足りなさがある。 B社：方針とイメージは示されているが、アンケート調査対象者等について、具体的な提案がなく、環境政策課と協議となっている。 C社：対象及び項目、ヒアリング先について具体的かつ的確な記載がされている。 D社：作成したマニュアルに基づいて実践し、改善するなど独自提案があり、十分な質・量の対象先を選定している。 E社：アンケート対象は目的に応じた候補者が示され、具体的である。
ヒアリング							
事後ヒアリングによる実用性確認・改善の考え方が整理されているか。	40	24	18	32	34	22	A社：ヒアリング内容を反映させるべき項目が例示されている。 C社：具体的かつ確かな考え方が整理されている。 D社：具体的かつ確かな考え方が整理されている。
4 成果共有							
要約資料・説明スライドが分かりやすく、説明・周知に活用できる内容となっており、将来的な他市町・事業者への横展開を見据えた工夫があるか。	40	28	26	32	34	24	A社：要約版や説明版のように、支援マニュアルを読みやすくしようという取組が見られる。 B社：説明会の開催による横展開の提案が加えられている一方で、個別の説明については項目ごとに備りが感じられた。 C社：リーフレットや動画作成など、手取りやすい方法が検討されている。 D社：複数のスライドや勉強会などの工夫が提案されている。 E社：要点が整理されている。
5 実施体制等							
業務の目標達成に必要な知見や専門知識、ノウハウを有し、必要な人員・連絡体制・遂行能力が確保されているか。	20	13	11	16	16	14	A社：必要項目を漏れなく抽出できるよう、既存マニュアルとの比較検討が図られている。 B社：十分な実績を有していると認められるが、50kW以下の小規模な案件に限られており、様々な規模を網羅的にカバーできるマニュアルとなるか懸念が残る。また、業務量のイメージに比べて職員の配置が少なく感じられた。 C社：社内におけるフォローアップ体制が充実している。 D社：十分な実績と体制を有する職員を配置している。 E社：社内におけるフォローアップ体制が充実している。
6 業務実績							
類似業務の実績又は本業務に対する優位性（提案者の強み）が認められるか。	20	15	13	18	19	11	A社：砂防ダムに関する豊富な実績や、自治体向けのマニュアルの作成など多様な主体に向けたマニュアルの作成実績も有している。 B社：元自治体職員のキャリアを活かした丁寧さが感じられ、小水力発電導入の伴走支援の多くの実績があり、具体的な事例に基づいたマニュアル作りが期待できる。 C社：手引きやガイドブックの官庁で複数の作成実績が見られる。 D社：小水力発電の導入促進に関する業務について、様々な範疇の業務実績を有している。
7 予算経費及び内訳							
予算額及び経費の内訳は、業務内容に応じた適切な配分となっているか。	20	13	11	12	12	12	
総合値（委員全員の評価値の合計）	400	281	243	334	357	244	